

国語

➔ 低学年 | 「言葉の学習」

「カタカナあそび」で育む言葉

～身のまわりにあるカタカナ見つけ～

1. カタカナ言葉への意識を育む

小学1年生にとって「カタカナ」は、ひらがなと並んで、しっかりと練習して正しく書けるようにならないといけない「文字」として学習します。「ン」と「ソ」などの紛らわしい字形の識別表記は、2年生になっても直せない子どももいます。

なぜカタカナを使うのか、カタカナそのものに対する意識を早いうちから育ておくことも大切です。

2. いろいろな物を水の中に落としてみよう

T (教師)：小さな石を池の中に落としたら、どんな音がするかな。想像してみよう。

C (児童)：「ポトン」「ポチャン」「ドボン」「ピチャン」

T：「ドボン」は、少し大きな石かもしれないね。じゃあ、ありさんが落ちちゃったら。

C：「ポチョ」「…ポ」

C：ほとんど音がしないんじゃないかな。

T：じゃあ、本当にやったら大変だけれど、教室の中で、いろいろな物を水の中に落としてみよう。

このような導入から、窓を閉める音、ランドセルを閉める音など、身近にある様々な音をカタカナで表す学習「音さがし」へと広がります。そして、まずは音を表すためにカタカナがあることを確かめます。

3. いろいろなカタカナ言葉を集めてみよう

ただ集めてみようというだけでは、収拾がつかなくなる恐れがありますので、以下のような条件をつけて、カタカナ言葉集めをしてみましょう。

(1) 「ア」で始まるカタカナ言葉から始めて、50音全て見つけられるかな

(2) 2文字のカタカナから始めて、どこまで長いカ

タカナ言葉を見つけれられるかな

(3) カタカナ言葉だけでしりとりができるかな

教科書には、次の3つがカタカナで書く言葉として示されています。

①外国の地名や人の名前

②外国から来た言葉

③物の音や動物の鳴き声

しかし、実際には、この3つでは分類できないカタカナ言葉が多くあります。例えば「^{パイタン}白湯スープ」は、中国語と英語を組み合わせた日本の造語です。また、外国とはもともとオランダ、ポルトガルを始めとする欧米諸国のことでしたが、今や世界中の国々や、アニメやゲームの中の異世界も含まれます。

4. カタカナ言葉でゲーム大会をしよう

たくさん見つけた「カタカナ言葉」を整理する感覚を養うために、ゲームを取り入れてみましょう。例えば、「4文字の食べ物」「スポーツで使う道具」「楽器の名前」などとお題を出し、グループ対抗で競わせます。代表の子に黒板に書かせたり、書き出した紙を投影機で映したりしてもよいでしょう。

食べ物であれば、スプーンやフォークを使って食べるか、お箸で食べるか。また、楽器ならば、オーケストラが使う物かなど、和と洋の区別を意識させる働きかけも大切です。

5. 高学年の外国語活動の耕しとして

カタカナ言葉という形で、大量の英単語が身のまわりにはあふれています。高学年より始まる外国語活動ですが、早いうちからカタカナ言葉への意識を育ておくことは、言語学習という観点から見て、今後ますます重要になってくると考えています。